

YAMAHA
ELECTRONIC PIANO

pf10

エレクトロニックピアノ

取扱説明書

ごあいさつ

このたびはヤマハエレクトロニックピアノ Pf10 をお買い求めいただき、まことにありがとうございました。

Pf10 は軽量、コンパクトなボディながら、音源として FM 方式を採用、美しく、ナチュラルなサウンドを実現しています。さらに、76 鍵で 6 オクターブをカバーしているうえ、ピアノ 1、2、3、電気ピアノ 1、2、3、ハーブシコード 1、2、ビブラフォン、クラビの 10 種の音色セレクターを備えています。

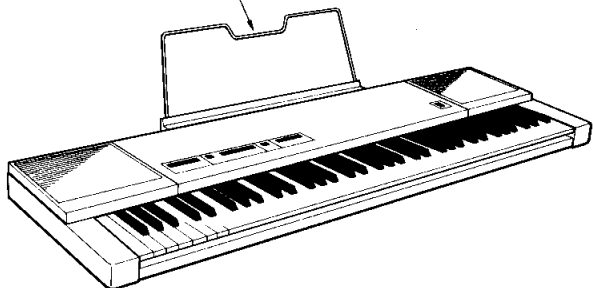
Pf10 はまた、2 つのスピーカーを内蔵していますので、これまでにはない豊かなサウンドが得られ、加えてステレオコーラス効果が生み出す美しい音の響きも Pf10 の大きな魅力のひとつです。

そのほか Pf10 では電子オルガンタイプの鍵盤でありながら、ピアノアクションに近いタッチフィーリングを持つ新機構を採用し、アコースティックピアノよりも軽く初心者にも弾き易い鍵盤となっています。

ぜひ取扱説明書をお読みいただき、Pf10 を末永くお楽しみください。よろしくお願いいたします。

目次	ページ
ご使用の前に次のことにご注意ください	2
各部の名称と機能/接続のしかた	3
操作のしかた/基本コントロール	5
参考仕様/ブロックダイヤグラム	6
サービスについて	7

譜面立ては、リアパネルに差しこんで
ご使用ください。



ご使用の前に次のことにご注意ください



設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因となりますのでご注意ください。

- 窓際など直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- 温度の特に低い場所
- 湿気やホコリの多い場所
- 振動の多い場所



無理な力を加えない

スイッチやツマミ類に無理な力を加えることは避けてください。



電源コードも大切

コードの断線やショートを防ぐため、電源プラグをコンセントから抜くときは、コードを引っばらないで必ずプラグを持って抜いてください。旅行などで長期間ご使用にならないときは、電源コードのプラグをコンセントからはずしてください。

※本機は国内仕様です。必ずAC100Vの電源コンセントにプラグを差し込んでお使いください。100V以外(例えば200V)の電源には絶対に接続しないでください。



セットの移動

セットを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防ぐため、他の機器との接続コードを取りはずしてから動かしてください。



接続について

3ページの「接続のしかた」をよく読み、正しく接続をしてください。

また、スピーカー破損防止のため機器接続の際は、それぞれの電源スイッチをOFFにしてからおこなってください。



外装のお手入れには

外装をベンジンやシンナー系の液体で拭いたり、近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布したりすることは避けてください。

お手入れは、必ず柔らかい布で乾拭きするようにしてください。



保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをおこなってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合には実費をいただくこととなりますので、充分ご注意ください。よろしくお願いいたします。



保管してください

この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。



落雷に対する注意

落雷などの恐れがあるときは、早めにコンセントから電源プラグを抜きとってください。



他の電気機器への影響について

Pf10はデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなど他の電気機器を同時にご使用になりますと、雑音や誤動作の原因となることがあります。ラジオやテレビなどの電気機器から充分離してご使用ください。

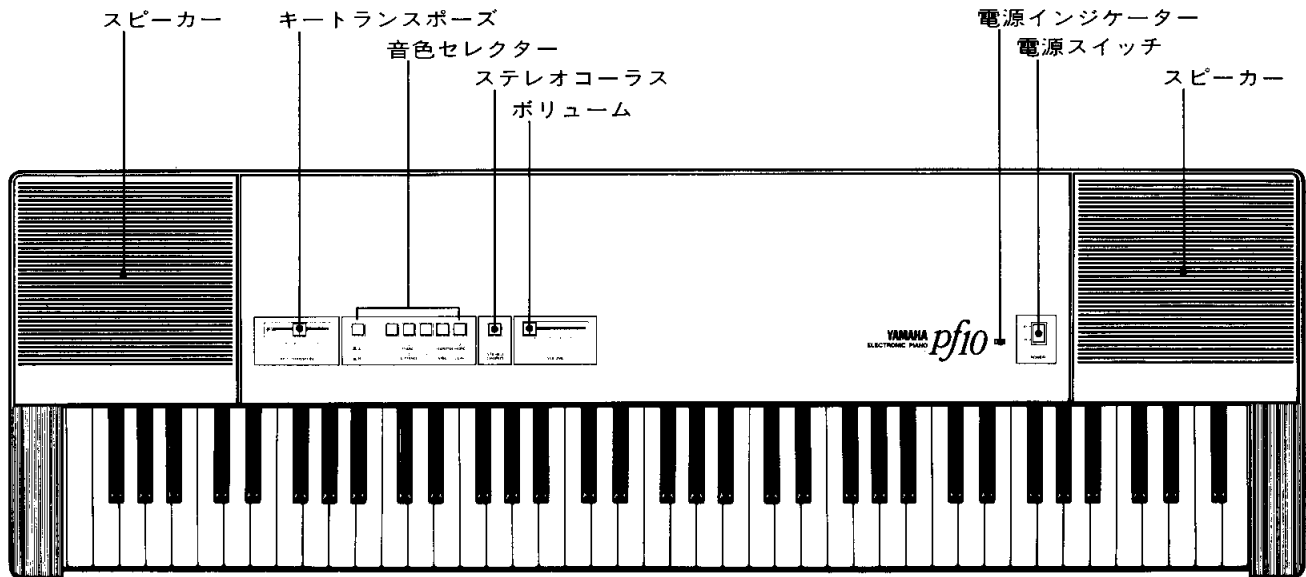
これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を開けたりヘッドホンを使用するのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう

Pf10 はスピーカーを内蔵していますので、電源コードをコンセントに差し込むだけでただちに演奏を始めることができます。Pf10 の動作を確認するため、次の手順で操作をしてください。

■各部の名称



1. 電源コードを接続してください。

電源コードをコンセントに差し込みます。

2. 電源スイッチを入れてください。

コントロールパネルの右にある電源スイッチを ON にします。電源インジケータが点灯して、Pf10 は動作状態になります。

- 電源スイッチを切る場合は、本機のボリュームを下げて（左いっぱい）から切ってください。
- A/B切り換えをA側（上側）にします。
- 音色セクターのPIANO 1 を押します。
- VOLUME（ボリューム）ツマミを右に動かし、鍵盤を押しますと、内蔵のスピーカーから音が出ます。
- 鍵盤を押す力によって音の大きさが変わります。

3. 外部スピーカーシステム等の接続

内蔵のスピーカーを使用しないで、ヘッドホンを使用したり、外部スピーカーを使用して演奏するときは、リアパネルの接続端子に各機器を接続します。

■鍵盤と音域

Pf10の鍵盤はE₀～G₆の6オクターブ、76鍵です。また、同時発音数は16音です。

①PHONES（ヘッドホン端子、標準およびミニ用）

ヘッドホンを接続する端子です。ヘッドホンはステレオヘッドホンを使用されますと豊かなステレオ効果を得ることができます。また、キーボード用のモノラルタイプその他、ミニプラグ付のヘッドホンも接続することができます。

- ヘッドホンを接続しますと内蔵のスピーカーからは音が出なくなります。

②OUTPUT I, II（出力端子）

外部のパワーアンプおよびアンプ内蔵スピーカーを使用するとき、またはミキサーに出力するときに使用します。この端子に直接スピーカーを接続することはできません。従って、外部スピーカーシステムを使用するときは、パワーアンプ内蔵のスピーカーシステムをご使用になるかパワーアンプとスピーカーを同時に使用することが必要です。

- 外部システムはステレオシステムでもご使用になれます。ステレオアンプのAUX（補助）端子に接続してください。
- Pf10のコーラス効果は一台のアンプ/スピーカーシステムでも得られますが、より豊かなステレオコーラス効果を得るためにOUTPUT I と II の2つの端子に、それぞれアンプ/スピーカーシステムをご使用になるか、ステレオシステム、あるいはステレオ出力を持つミキサーなどをご使用になることをおすすめします。

③KEY HOLD (フットペダル接続端子)

付属のフットペダルFC-5をこの端子に接続します。このキーホールドの効果は、アコースティックピアノのソステヌートペダルと同じような効果が得られます。鍵盤を押している間にフットペダルを踏むと、その押された鍵盤の音にだけサスティン効果が得られます。すなわち、和音にキーホールドをかければその和音にだけサスティン効果がかかるわけです。余韻の長さは、フットペダルを踏んでいる長さでコントロールできますが、ペダルをはなすと余韻は途中で解除されます。

- サスティンペダルがON(踏まれている状態)されていますと、この効果は得られません。(サスティンモード優先)
- 別の音にこの効果を得ようとする場合は、1度ペダルを離し、新たにペダルを踏みなおしてください。
- 同時発音数16音を全てキーホールドした場合は、ペダルをOFF(ペダルが踏まれていない状態)にしないと他の音は出ません。たとえば、4音をキーホールドしペダルを踏み続けた場合、同時発音数は12音となります。

④SUSTAIN (フットペダル接続端子)

付属のフットペダルFC-5をこの端子に接続します。フットペダルを接続しますと、サスティン効果のON/OFFをリモートコントロールすることができます。

- サスティン効果
フットペダルを踏むとON状態となり、アコースティッ

クピアノのサスティンペダルと同じ効果が得られます。弾かれた音は離鍵後、余韻をもって消えていきます。ペダルを離すとOFF状態となり、離鍵後と同時に音が消えます。

- フットペダルを接続しないで演奏した場合は、サスティン効果は得られません。

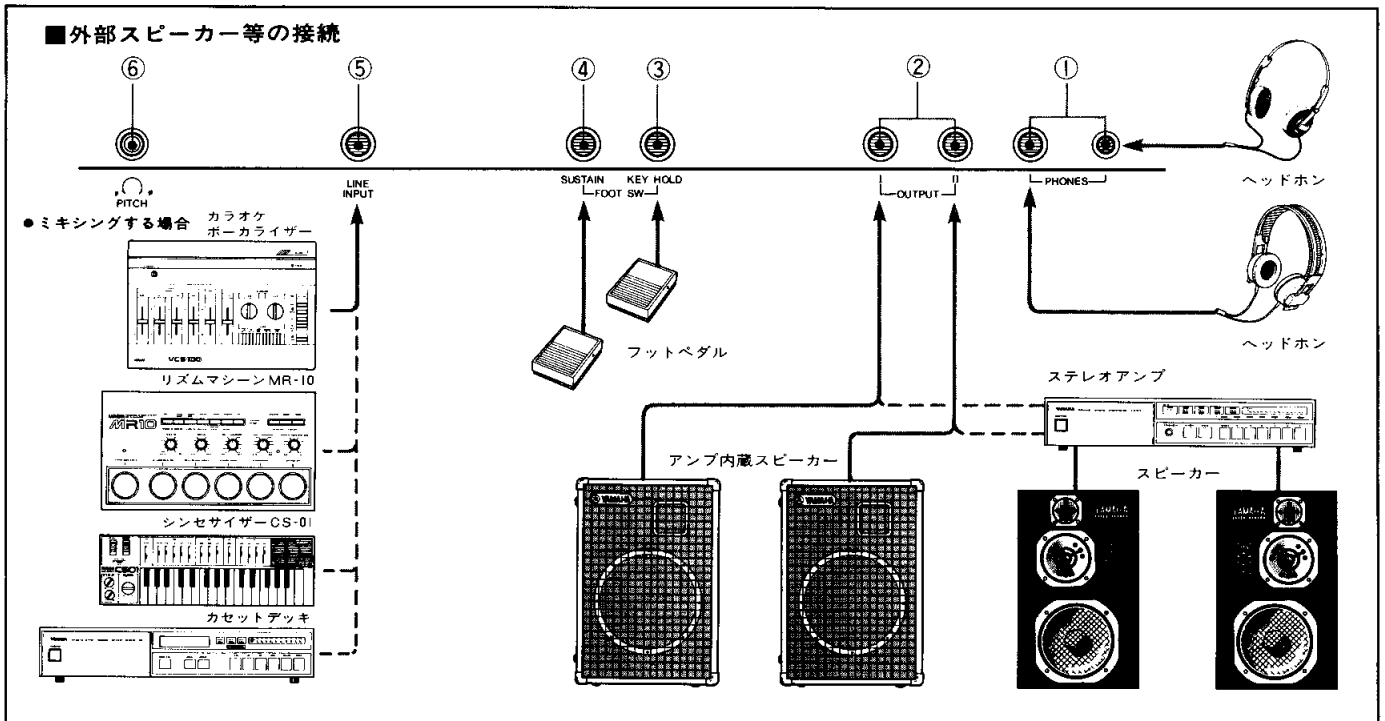
⑤LINE INPUT (外部入力端子)

外部のリズムマシンやカセットデッキおよびキーボード、ボーカライザーを使用して、Pf10とミキシングするとき接続します。リズムマシンや、テープ、カラオケに合わせて演奏したり、キーボードでのコンボアンサンブルするのに便利です。

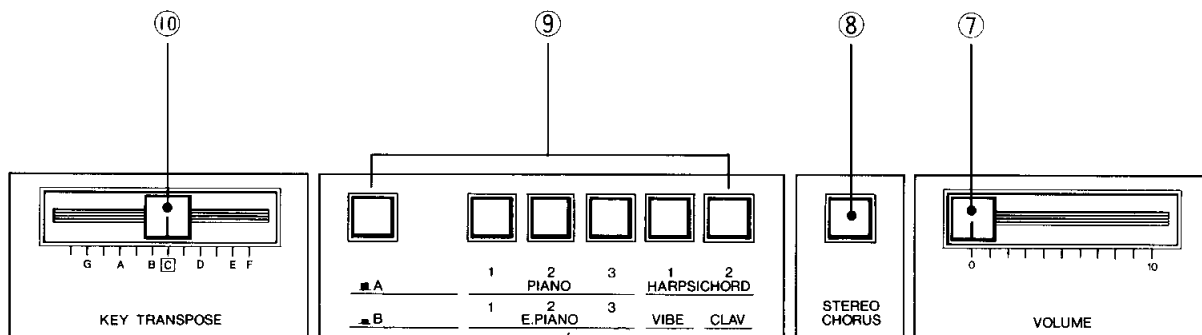
- この端子を使用した外部機器の音量は、Pf10のボリュームではコントロールできませんので、外部機器側でレベルを調整してください。
- この端子はモノラル端子ですので、外部機器がステレオの場合は、L、Rどちらかの端子を使用してください。なお、Pf10の内蔵スピーカーからはモノラルの音が左右同時に聞こえます。

⑥PITCH (ピッチコントロール)

#側に回しますと、音程が全体的に上がり、b側に回しますと下がります。他の楽器との合奏をする際などにお使いください。可変範囲は436~447Hzです。



接続と動作の確認が終了したら、実際に演奏しながら、基本的なコントロールを操作してみましょう。



⑦VOLUME (ボリューム)

Pf10の全音量を調整します。

●外部アンプ、スピーカーを使用するときは、Pf10のボリュームを「8」の位置ぐらいにしたときに、適切な音量が得られるようにアンプ側のボリュームをセッティングしますと、ノイズの少ない、きれいな音で演奏できます。

⑧STEREO CHORUS (ステレオコーラス)

このスイッチを押して、ONにしますとステレオコーラス効果のついた演奏をすることができます。

●LINE INPUT端子に接続した外部機器の音にはステレオコーラス効果は得られません。

⑨音色セクター

Pf10の音色を決めるスイッチです。本機はPIANO 1, 2, 3, HARPSICHORD 1, 2, ELECTRIC PIANO 1, 2, 3, VIBRAPHONE, CLAVの10種類の音を持っています。左側にあるスイッチをA側(▲)にしたときは、各音色スイッチの上段に書いてある音色を選択でき、B側(▼)にしたときは、下段に書いてある音色を選択できます。

A/B切り換えスイッチと音色セクターの組み合わせてご使用ください。

●2つ以上のスイッチを同時に押した場合は、右側のスイッチが優先されます。

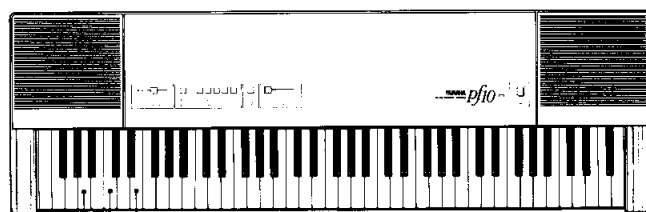
●5つの音色セクタースイッチがすべてOFFの場合は、PIANO 1の音にセットされます。

●音色を切り換える場合は、前の音が完全に消えてから行なってください。音が残っているときに切り換えますと異なった音が出る場合があります。

⑩KEY TRANSPOSE (キートランスポーズ)

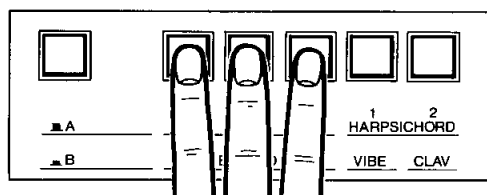
演奏は、やさしいハ長調の弾き方のままでキートランスポーズを動かすと移調がワンタッチでできます。また、この機能によって実際にある鍵盤よりも上下合わせて1オクターブの音域が増えることになります。

●通常はCの位置でご使用ください。



キートランスポーズの位置Cのとき実際に出てくる音はドになります。キートランスポーズの位置Aのとき実際に出てくる音はラになります。キートランスポーズの位置Eのとき実際に出てくる音はミになります。

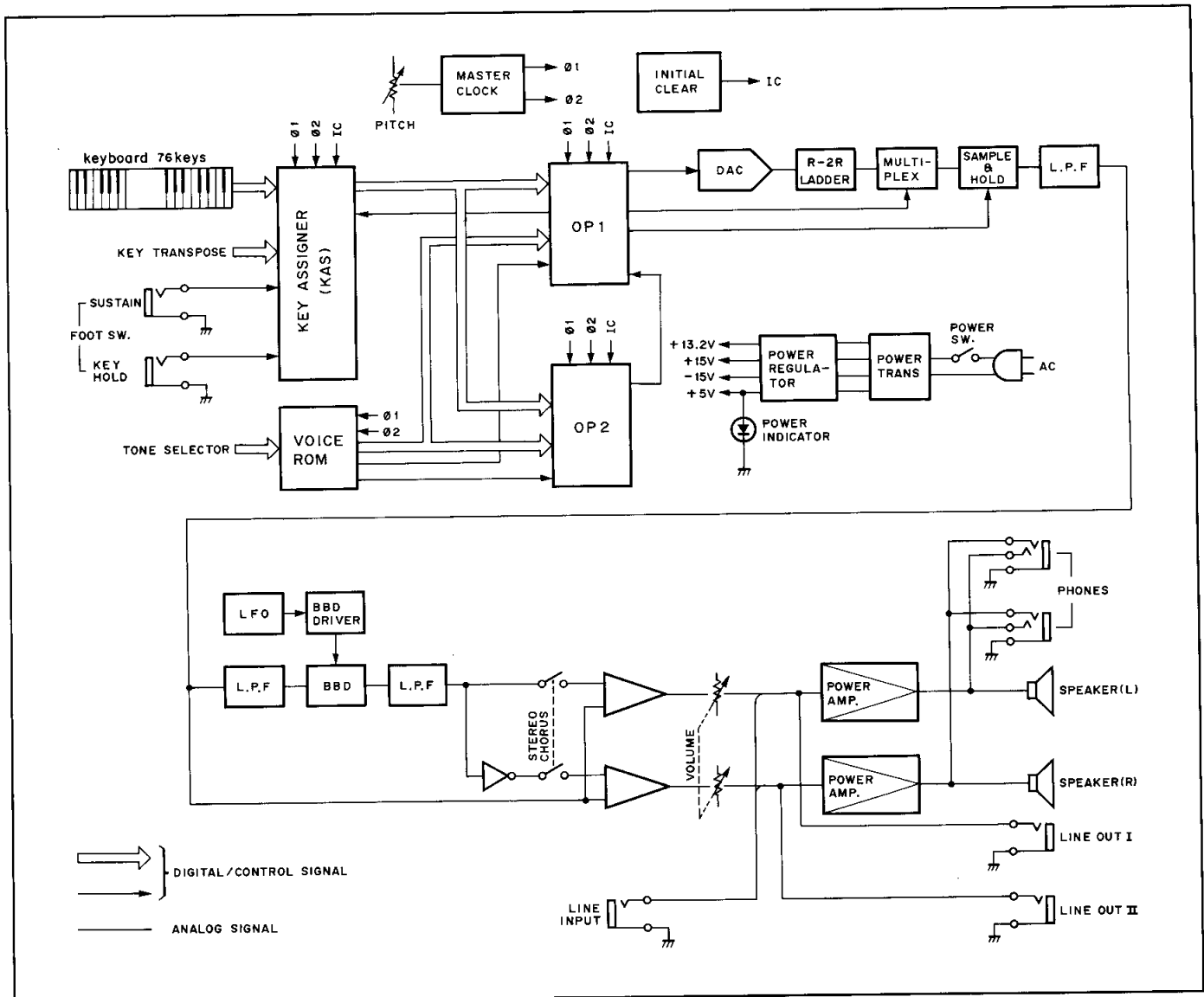
“PUSH”



参考仕様/ブロックダイアグラム

鍵盤……………76鍵, E₀~G₆ (キートランスポーズ)
(C₇位置)
 キートランスポーズ使用時 (F_{A-1}位置~C₆#) (F_{A0}位置~C₇)
 同時発音数……………16音先着優先
 ピッチコントロール…436Hz~447Hz
 サスティン……………ON/OFF (フットペダル使用時)
 キーホールド……………ON/OFF (")
 キートランスポーズ
 音色セレクター……………A/B切り換えスイッチ
 PIANO 1, 2, 3/HARPSICHORD 1, 2
 E. PIANO 1, 2, 3/VIBE, CLAV
 ステレオコーラス……………ON/OFF
 スピーカー……………12cm×2 (4Ω)
 内蔵アンプ出力……………5W×2 (最大)
 リアパネル
 LINE INPUT……………標準モノホンジャック
 600Ω, -15dBm(最大)

出力端子 I, II……………標準モノホンジャック
 600Ω, -10dBm (VOLUME最大)
 ヘッドホン端子……………標準ステレオホンジャック×1
 8Ω
 ステレオミニジャック×1, 8Ω
 ペダル接続端子……………標準モノホンジャック×2
 電源電圧……………100V, 50/60Hz
 消費電力……………30W
 寸法(W×H×D)……………1,129×87×359mm
 重量……………18kg
 付属品……………フットペダル(FC-5)×1, 譜面立て
 ダストカバー
 ■外観および仕様は改良等のため予告なく変更することが
 あります。



サービスについて

本機の保証期間は、保証書によりご購入から1ヶ年です。(現金、ローン、月賦などによる区別はございません。)また保証は日本国内にてのみ有効といたします。

●保証書

保証書をお受け取りのときは、お客さまのご住所、お名前、お買い上げ月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効になりますので、くれぐれもご注意ください。

●保証書は大切にしましょう!

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客さまに、ご購入の日から向う1カ年間の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただきますこととなります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮のうえで保管してください。また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別や、サービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

●保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買上げ店にご持参頂きますと、技術者が修理・調整致します。この際必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合にはサービス料金を頂く場合もあります。又お買上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買上げ店あるいは電音サービス拠点にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよう手続き致します。

満1カ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は最低8年となっています。そのほかご不明の点などございましたら、右記のヤマハサービス網までお問い合わせください。

日本楽器製造株式会社

本社・工場 〒430 浜松市中沢町10-1
TEL.0534(65)1111

東京支店 〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内
TEL.03(572)3111

銀座店 〒104 東京都中央区銀座7-9-14
TEL.03(572)3131

渋谷店 〒150 東京都渋谷区道玄坂2-10-7/新大塚ビル内
TEL.03(476)5441

池袋店 〒171 東京都豊島区南池袋1-24-2
TEL.03(981)5271

池袋東ショップ 〒170 東京都豊島区東池袋1-30-1 /
フランスウィックススポーツガーデン内
TEL.03(983)9914

ヤマハ吉祥寺センター 〒180 武蔵野市吉祥寺本町1-10-1/いなりやビル内
TEL.0422(21)7182

横浜店 〒220 横浜市中区本町6-61-1
TEL.045(314)8251

大阪支店 〒542 大阪市南区南船場3-12-9
心斎橋プラザビル東館(4F)
TEL.06(251)1111

心斎橋店 〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39
TEL.06(211)8331

梅田店 〒530 大阪市北区梅田1-3-1/大阪駅前第1ビル内
TEL.06(345)4731

神戸店 〒651 神戸市中央区元町通2-7-3
TEL.078(321)1191

高松店 〒760 高松市丸亀町8-7
TEL.0878(51)7777

名古屋支店 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL.052(201)5141

九州支店 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL.092(472)2151

福岡店 〒810 福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内
TEL.092(721)7621

小倉店 〒802 北九州市小倉北区魚町1-1-1
TEL.093(531)4331

北海道支店 〒064 札幌市中央区南十条西1丁目4番地
ヤマハセンター
TEL.011(512)6113

札幌店 〒064 札幌市中央区南10条西1丁目/ヤマハセンター
TEL.011(512)6111

仙台支店 〒980 仙台市大町2-2-10
TEL.0222(22)6141

仙台店 〒980 仙台市一番町2-6-5
TEL.0222(27)8512

広島支店 〒730 広島市中区基町13-13/平和生命広島ビル内
TEL.082(221)4122

広島店 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
TEL.082(248)4511

浜松支店 〒430 浜松市田町32/東京海上ビル内
TEL.0534(54)4116

浜松店 〒430 浜松市鍛冶町122
TEL.0534(54)4111

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

お客様ご相談窓口

東京電音サービスセンター 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F)
TEL.(03)255-2241

東京ステレオサービスステーション 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F)
TEL.(03)255-2241

東京電音サービスステーション 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F)
TEL.(03)255-2241

横浜電音サービスステーション 〒231 横浜市中区本町6-61-1
TEL.(045)212-2223

新潟電音サービスステーション 〒950 新潟市万代1-4-8
(シルバーホールビルヤマハ新潟センター2F)
TEL.(0252)43-4321

大阪電音サービスセンター 〒565 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内)
TEL.(06)877-5262

大阪ステレオサービスステーション 〒565 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内)
TEL.(06)877-5262

大阪電音サービスステーション 〒565 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内)
TEL.(06)877-5262

四国電音サービスステーション 〒760 高松市南新町6-1(岡田ビル2F)
TEL.(0878)33-2233

名古屋電音サービスセンター 〒460 名古屋市中区栄1丁目8-7
TEL.(052)231-2432

名古屋電音サービスステーション 〒460 名古屋市中区栄1丁目8-7
TEL.(052)231-2432

北陸電音サービスステーション 〒921 金沢市奥本町7-7
TEL.(0762)43-5341

浜松電音サービスステーション 〒432 浜松市東伊場2-14-1
TEL.(0534)56-9211

九州電音サービスセンター 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL.(092)472-2137

九州電音サービスステーション 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL.(092)472-2134

広島電音サービスステーション 〒731-01 広島市安佐南区紙屋町西原2205-3
TEL.(082)874-3787

北海道電音サービスセンター 〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地
TEL.(011)781-3621

北海道電音サービスステーション 〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地
TEL.(011)781-3621

仙台電音サービスセンター 〒980 仙台市大町2丁目10
(往來生命仙台青葉通りビル)
TEL.(0222)22-6144

仙台電音サービスステーション 〒983 仙台市節町5丁目7
(仙台卸商共同配送センター内)
TEL.(0222)96-0249

お預り品修理拠点

東京電音サービスデポ 〒171 東京都練馬区高野台2-3-10
TEL.(03)904-4901

大阪電音サービスデポ 〒565 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内)
TEL.(06)877-5262

名古屋電音サービスデポ 〒460 名古屋市中区栄1丁目8-7
TEL.(052)231-7896

九州電音サービスデポ 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL.(092)472-2134

北海道電音サービスデポ 〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地
TEL.(011)781-3621

仙台電音サービスデポ 〒983 仙台市節町5丁目7
(仙台卸商共同配送センター内)
TEL.(0222)96-0249

本社

営業技術課電音サービスセンター 〒430 浜松市中沢町10-1
TEL.(0534)65-1111